迷いをはらい邪を去りて我が国民を救わずや

化学関東常盤会　真鍋　憲二（工化44年卒）

鴻南寮寮歌

一．鴻峰晴れて紅匂い
白鳩高く空飛べど
混濁濁の黒潮の
逆巻返る響して
邪と迷いとに人々は
静心なき夕べかな

二．嗚呼かかる世に
生まれ出でし
我ら五百の健児らよ
剛健の気を盾となし
自治と自由の旗を立て
迷いをはらい邪を去りて
我が国民を救わずや

昭和40年４月山口市の鴻南寮に入寮した。すぐに寮歌、逍遥歌を覚えさせられた。寮歌は強烈に心に響いた。

親元（北九州市若松区）を離れての初めての寮生活は全てが刺激的だった。寮費、食費は格安で奨学金のみで生活できた。寮は４人部屋で机が４つ、布団を４枚敷くと空きスペースはなかった。崩壊した壁には模造紙が貼られ、はがすと隣室と行き来ができた。２階は上級生が占めていた。時々上級生指導の４部屋討議が行われ、寮・大学・社会が抱える問題について初めて認識した。寮生大会の決議事項に反すると退寮処分となるので、デモに参加したり文理学部の正門にバリケードを築いたりした。寮祭は最大のイベントで強く印象に残っている。上半身裸になり、ビール１本を持ち市内を走り、鳳陽寮・時雍寮・女子寮にストームをかける。それぞれの寮の玄関で肩を組んで寮歌を歌う。待機していた他寮生が屋根からバケツに溜めた寮雨を浴びせる。最後は女子寮で水道水を浴び、身を清めた。

１年が経ち、工学部の常盤寮に入寮する。常盤寮での生活が始まった直後は悶々とした日々を過ごした。この年の秋には20歳になるのに何の将来構想も描けていなかった。鴻南寮寮歌の「迷いをはらい邪を去りて 我が国民（くにたみ）を救わずや」が呪文の如く襲ってくる。

呪文を「自己を確立し役割を果たす」と解釈した。しかし文武ともに才能に乏しい自分に何ができるのか、何をすべきかいくら考えてもわからなかった。苦悶の末、まずは身体を鍛えることはどの道に進んでも間違いではなかろうという考えに至り、翌日柔道場に行き入部を申し出た。柔道は一度もやったことはなかったが、柔道を選択したのは自力本願で金がかからないだろうと思ったからである。部室にあった他人の道着を借りて受け身から教わった。練習は毎日２時間程度だったがきつかった。２時間もつように途中で力を緩め

今川研究室　前列左端が筆者
背景左は常盤寮、右は正気館（武道場）

る弱い自分に腹が立った。夏休みには合宿練習にも参加した。寮から自分の布団を校内の道場に持ち込み、道場で寝起きする。入部から10か月後に昇段試験を受けたが、５戦５引き分けで不合格。未だ柔道になっていなかった。しかし、成果はあった。１年間で体重が55kgから65kgとなり持病の喘息が完治したのだ。常盤寮の食事で体重が増えたのが信じられなかった。翌年、昇段試験に再チャレンジし５戦オール１本勝で黒帯となった。

卒業研究では今川先生（物理化学－電気化学）にお世話になった。自分の専門知識は極めて未熟なものだった。

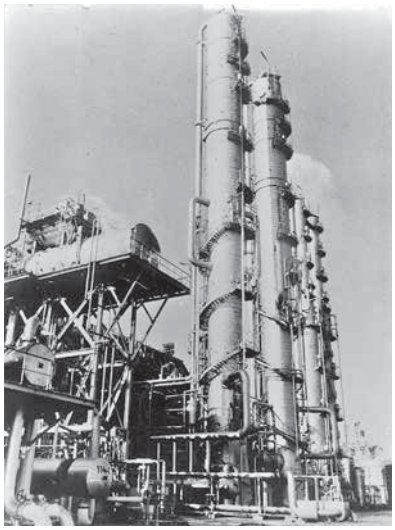
４年間の寮生活を終えて会社生活が始まった。日産化学㈱に入社し富山工場のアンモニア課に配属された。職場ではよき上司に恵まれた。プラントの運転の基本からプロセスの解析、改善、生産管理まで実践的な指導を受け生産技術者として鍛えられた。仕事外では工場に柔道部を創設し、郡大会に出場した。

昭和48年２月東洋エンジニアリング㈱のアンモニアプラント建設のオペレーションチームの一員として東ドイツに派遣された。チームは三井東圧化学、東亜合成、東洋ガス、ＴＥＣ、日産化学の混成だった。

プラントは基本設計以外全て日本製だった。原料の天然ガスはソ連からパイプラインで供給される。当時の世界最大級の生産能力（1,360t/d）で回転機の大部分がスチームタービン駆動だった。アンモニア合成の発祥の地は東ドイツである。誇り高いドイツ人オペレーターを指導するのに気を使った。日本チームは２交代で14時間労働だった。数々のトラブルを経験した。13か月後に保障運転が完了した時はオペレーションチームの全員が感涙にむせんだ。この時初めて寮歌の精神を実践できたと思った。

会社生活のほとんどが工場（製造現場）勤務だった。工場の技術者は設備の医師のような存在である。それぞれの機器の性格までを熟知する必要がある。的確に診断し異常の兆候を発見し事前に対策をとることが極めて重要である。一方で工場には不合理な点や無駄も多く、改善点は無限にある。工場は宝の山なのである。平凡を積んで非凡に達するという言葉もある。

令和元年５月、これからの生き方を考えるために原点ともいうべき山口市を訪問した。山口駅から一の坂川沿いを歩く。洒落た喫茶店があり、隠れたところに居酒屋がある。京都より雰囲気がよい。『柳、桜をこきまぜて…』の逍遥歌を思い出す。教養課程があった文理学部は緑の公園や公共施設に変わっている。亀山から寮のあった付近を散策し、サビエル記念聖堂そして道場門前へ足を伸ばす。歩き疲れた目の前にこぢんまりとした和風の居酒屋があった。暖簾をくぐると感じのよい店でおかみは津和野出身の女性だった。山口の地酒が実に美味い。学生寮での生活が人生の基盤になったのは確かである。山口大学で学べたことが幸運であったと感じざるを得ない。これからの価値ある生き方とは？さらに２店はしごして夢幻の世界に落ちた。



東ドイツ アンモニアプラント